

KSKP

たびだち つうしん

出

発

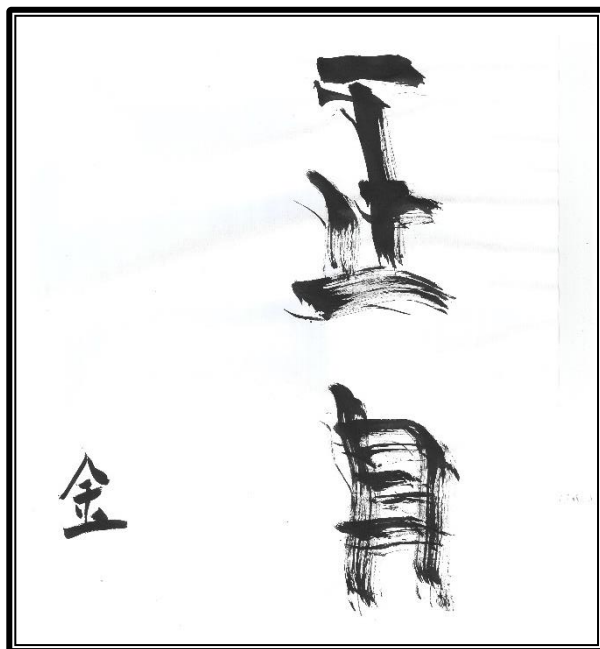
通

信

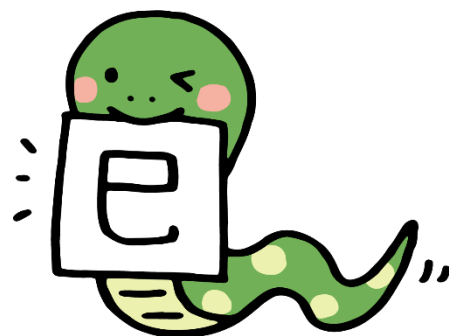
NPO法人 出発のなかまの会

183号

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



2025



もくじ
目次

新年のごあいさつ	2
「つながり」を大切にしたい	4
能登に行って一番印象に残ったこと	5
「ゆめパのじかん」上映会にお越しくささい	6
童夢KANSAIフェスティバル	7
ピープルファースト大会に参加してきました!	8
第29回ピープルファースト大会報告	9
「〇〇したい!」を応援したい!(スタッフ子育て日記)/私たちは地域で暮らしているんだ	10
生野“食と農のプロジェクト”ニュース	11
活動のあと	12

しんねん
新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。年始の挨拶をする
と、^{さくねん がんたん の とほんとう おそ じしん おも お} 今年の元旦、能登半島を襲った地震を思い起
こします。どんどのメンバーさんたちが今年度の目標に
「能登半島の仲間を応援しよう」と掲げてくれたこと
もあり、秋にメンバーさんたちと一緒に石川県・
羽咋市の「一般社団法人・つながり」さんを訪問しま
した。（4、5ページに特集記事）。復興に向けて力強
く進んでいる方たちと出会い、私たちが元気をもらえ
た部分も多かった訪問でしたが、この地震では、地震
以前から過疎化し、存続が危ぶまれる集落も多数
被害に遭いました。この状況をどう受け止めればい
いのか、とと思っていたところ、年末に『コミュニティ・デ
ザイン新論』（さいはて社）という本に出会いました。
多くの研究者・実践者が執筆しているこの本のキーワ
ードの一つに“むら・まちの『尊厳ある縮退』”というも
のがありました。むら・まちの将来を専門家が決める
のではなく、かといって当事者だけで決めるのでもな
く、異なる価値観との出会いを通じて、対話を重ねな
がら将来の道を決めていくプロセスに自分たちの
活動を重ね合わせ、思うところがありました。少し長
くなりますが、みらくるちっぴ通信11月号の記事を転載
します。



みらくる ゆーすとには不登校になっている子が
数人います。不登校の期間はさまざまですが、中学校
卒業後の進路に向けては、とにかく本人が決めること

が一番大切だと思い、職員と一緒にオープンスクール
や進学フェアに出かけて話を聞き、本人の選択をサ
ポートするよう心がけています。「決められない」「な
んでもいい」という子たちを前にし、選択までの期限
が迫ってきて我慢、我慢。本人が自分の気持ちを見
つめ、迷いながら選択することで、“自分で決めた”と
実感を持ち、万が一うまくいかなかった時にも、自分
の問題を自分で引き受け、次のステップに踏み出せ
るように支援したいと思っています。

2学期に入り、A君（高校3年生）は学校に行きにく
くなってきました。入学時には、卒業後就職するため
のコースを選択していましたが、3年生で進学コース
に変更。その後、将来についてご両親も含めて何度か
話し合いをした末に、やはり就職することに決め、
採用試験も受け始めました。順調に見えていたの
ですが、9月に入ると欠席することが増え始めました。
最初のうちは「就職試験も始まり、勉強への意欲が
失せて、学校に行くモチベーションが下がった。まわり
の就職組もそんな感じやし。」と他人からの影響を話
していましたが、いろいろと尋ねるうちに「クラスの
雰囲気にも身を置くことが耐えられない。」と言いはじ
めました。担任に連絡すると、最初は「勉強も友達関係
もうまくいっている。生徒会も頑張っているし。」とのこ
とでしたが、クラスでの様子を尋ねると「確かにクラス
に特定の友達はいない。」とのこと。部活も人間関係
のトラブルで今年に入って退部した A君、クラスにも
特定の友達がいなければ、学校生活はつらいだろう
なあと想像できます。最初は欠席すると「さぼった。行
く気がしなかった。」と言っていた A君も「ほんまに
今日は行こうと思ってたけど、お腹が痛くなった。」に

ひょうげん か が 変わリ、そのうちにゆーすどで学校の話をし
ていても「ごめん、またお腹が痛くなってきた。」とトイレ
に入り、「この時期に、まさか自分がこんなことになる
とは思わなかった。」と葛藤を口にするようになりまし
た。

しかし、本人の中に葛藤はあっても、どっぶり思春
期、家てのご両親への態度はふてぶてしく、反抗的で
す。お父さんからの「(無断欠席で)学校から連絡き
たぞ。」という LINE にも「おけ(=OK の意)」と一

こと わたし どう たちば 言。私がお父さんの立場でも「なにが OK やねん！」
と怒ってしまいそうです。そうこうしているうちに家にも
居づらくなり、とうとう家出。友達の家に泊まったり、泊
めてもらえなくなると自転車奈良まで走ってみた
り、、、野宿した翌日に公園で寝ていたところを見つ
けたこともあります。「高校は卒業したいと思ってい
る」と言う A 君ですが、家出の間は学校も休んだまま
で、「このまま欠席が続くと(出席日数不足で)卒業
できない」と言われています。A 君と話をするとき「一人
の時間がほしい。もうちょっと待ってほしい。」と言いま
す。確かに、家出中の夜はたっぷり時間があり、これま
での写真を選んで「思い出アルバム」を作ってみた
り、A 君が「保育園時代からの悪縁」という苦手な
ともだちくん これまでの言動を詫びる手紙を書いてみ
たり、自分を振り返る時間にはなっているようです。

しゅうしよくしけん けっかほっぴょう げつじょうさき しゅうしよく
就職試験の結果発表は 1 か月以上先です。就職
きぼうさき きんむち えんぼう かこうせい たか しゅうしよく
希望先は勤務地が遠方になる可能性も高く、就職に
ついては「不安しかない」とも口にしています。A 君の
はなし じぶん き 話からは、自分で決めたものの就職への不安、みら
くるちっふなどずっと関わってきた場所や人との別れ
に対する寂しさ、行かないといけないとわかっている

からだ うご のに体が動かないもどかしさなど、結果待ちの宙ぶ
らりんな時期に複雑な思いを抱えていることが感じら
れます。卒業に向けてはタイムリミットもあり、私たち
しよくいん あせ きも 職員は焦る気持ちもあるのですが、A 君の揺れる
きも 気持ちに寄り添いながら、A 君自身が次の一歩を踏
み出せるよう、支援していきたいと思っています。



“自分で決める”ということには、決めるまでのプロセ
スだけでなく、決めた後の葛藤を引き受けることも含
まれます。一人で持ちこたえるには大変なことも、仲間
や支えてくれる人、一緒に伴走してくれる人がいれ
ば、揺れ動いたり寄りかかったりしながら自分のもの
としていけるのではないかと思います。

どうかい こんねんど しゅうねん むか しょうがい
当会は、今年度 45 周年を迎えました。障害のある
こ こども かつどう がくれいき かつどう はじ
子・ない子が共に活動する学齢期の活動から始まり、
はたら ばく らす ば 働く場・暮らす場づくり、ガイドヘルパーを利用した
しゃかいさん かつどう はじ どうじしゃかつどう かつぱつか
社会参加活動の始まり、当事者活動の活発化と
“みぎかたあ かつどう てんかい
右肩上がり”に活動を展開してきました。その後も生
きづらさを抱えた人たちと共に居場所を作ったり、再
び子どもたちとの活動を始めたりと進んできました
が、活動当初から共に歩んできた人たちも続々と 50
さい こ かつどうけいたい へんか ひつようせい かん
歳を超え、活動形態にも変化の必要性を感じていま
す。人生には目指すゴールがあるわけではありませ
ん。コミュニケーションの難しさを抱えたメンバーさん
たちの思いを丁寧に聴き、真の意味での“対話”を続
けながら、それぞれの方の尊厳を大切に、これまで
のかたち のみに固執することなく、進んでいきたいと思
っています。(勝井操)

「つながり」を大切にしたい

元日の夕方に襲った能登半島地震は、どんだんのメンバーのみ
 ンにも関心を寄せていて、今年度の活動目標の一つは「能登半島
 地震の被災者を応援したい」でした。

10月末に、石川県羽咋市にある一般社団法人つながりを訪問
 しました。運営しているグループホームのうちの1軒が被災して住
 めなくなっていました。中に入らせてもらおうと、液状化で床の隆起
 がひどく、居室を少し歩くだけで酔いそうになるほどでした。グル
 ープホームを閉じることも考えたそうですが、「またみんなで住みたい」という入居者の思いを受け、
 移転を決意され来春にはみんなでの生活が再開されるとのことです。



古民家をほぼそのまま利用している地域サポートハウス「楽生(らっきい)」では、震災当時、避難し
 てきたメンバー、児童、職員数名がしばらくそこで寝泊まりしていました。断水など制限の多い生活は
 しんどいけど、楽しい。「まるで合宿みたい」との意見もあり、なんと前向きな人たちなんだと感心しま
 した。「楽生」で、つながりのメンバー、放課後等デイサービスの児童、職員たち 20数名とたこ焼きパ
 ーティーをしました。大阪出身の方が、業務用のたこ焼き器をレンタルしてくれて、本格的なたこ焼
 きパーティーになりました。勝井さんが 20数名分のたこ焼きを焼いている間、原田さん、北山さんは、
 用意していた自分たちの生活を紹介する写真ファイルを使って急遽ミニ講演をしていました。つな
 がりの職員の助けを借りながらも、ひとり暮らしや仕事について、つながりのメンバーに質問したりしな
 がら上手に話をしていました。田中さんもたこ焼きや、つながりのみなさんが用意してくれた巻き
 寿司、豚汁などをいっぱい食べた後、つながりのメンバーと獅子舞のかぶり物をかぶり、神楽を踊
 たり交流を楽しみました。

「夢生民(むうみん)」「るるるん・ち」で昼食やコーヒーをご馳走になりました。つながりではどこに
 案内してもらっても、職員が我々の名前を事前に覚えてくれていて、大阪から来る我々をおもてなし
 しようという思いがとても伝わりました。羽咋市に行く前は被災された方々を少しでも励まそうと思っ
 ていましたが、つながりの方々との交流で逆にこちらが元気をもらい、励まされた感じになりました。
 障害当事者の地域での暮らしを大切にしているということは、人との「つながり」を大切にしているこ
 とでもあると思います。人とつながりたいと思うときに時間や手間を惜しまない事、相手とどうすれば
 楽しめるだろうか考えることの大切さをつながりと出会い学びました。

つながりの方に感想を聞くと、被災した自分たちのことを忘れないでいてくれたことが嬉しかったのと、なによりどんだんの障害当事者の方が能登半島地震で被災した自分たちを応援したいと言って、訪れてくれたことが嬉しかったとの事でした。

田中さんと私は「のどからの風」展の設営の手伝いにも行きました。当会のグループホーム桃栗館の元職員で、今は地元の金沢に戻りゆめ風ネット加賀の事務局をしている林さんにも会い、お互いに顔を合わすなり、笑顔で抱き合い感動の再会をしました。

「のどからの風」展では、能登半島の各事業所の被災した建物や避難状況をパネル写真で見してきました。原田さんは熱心にパネル写真を見てはスマホで何枚も写真を撮っていました。田中さんも「トイレ」「ガラス」「ボロボロ」など被害の大きさに驚いていま

した。物品販売もしていて、お菓子や冊子、トートバックなどいっぱい購入して被災地の応援をしました。北山さんも応援ボードに「みんな一緒にがんばろう」と応援メッセージを書いていました。

つながりの方は 11 月に長居公園で開催した童夢 KANSAI にも来られ、さっそく原田さんとも再会しました。新たに生まれた「つながり」をこれからも大切にしていきたいです。 (廣澤新平)

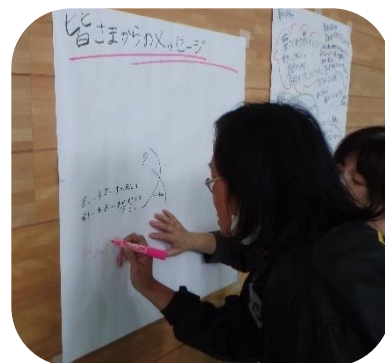


能登に行って、一番印象に残ったこと



家とかホテルとかが崩れているのを見たこと。今まで、テレビでしか見たことがなかった。去年は東北で(復興祈念)公園や(震災遺構)学校を見た。すごく怖いなと思った。でも、保育園やたびだちでみんながいる時に地震が来たら怖くないかな?能登にも東北にもまた行きたいわー。(夢生民さんで)お昼をおなかいっぱいごちそうになったわ。カニクリームコロッケだと思って食べたけど、大阪に帰って、あれはエビカツだって聞いてビックリしたわ。 (原田小夜子)

地震で道が割れているように見えました。グループホーム、半分まがっていると思った。和倉温泉(の被災状況)はちょっと割れているようなかんじでした。私たちもこんななったら困ると思いました。トイレも壊れて、あんまり分かりません。トイレの使い方が分からん!と思いました。 (北山妊和)



「ゆめパのじかん」上映会にお越しください

昨年「教育と愛国」の自主上映会を開催し、想定していた以上の多くの人に見ていただき、新しい出会いもあり「これは良いな。次はどの映画を上映しようかな」と思いついたのが「ゆめパのじかん」です。ならばまずは“ゆめパ”を実際に体験しなくちゃ！と川崎市子ども夢パークに行ってきました。

平日の 10 時過ぎに到着した時にはすでに元気に落ち葉まみれになっている子が数人。理事長の西野さんは徹底的に子どもの視点に立っておられ、「みんな元気になったらここ（ゆめパ）から卒業していきます。社会で必要な力は学力では測れないよ。」というお話は「よし！これからも子どもの力を信じてやっていこう！」と背中を押されたと同時に、＜学力の向上＞を目標に掲げられている大阪の教育現場のしんどさを思わず

にいられません。子どもが学校に行けなくなった時に周りの大人は動揺し何とか学校くらいは行ってほしいと願います。それは学校以外の居場所が圧倒的に少ないこと、社会に出たときに困るのではないかと、という心配が大きな要因でしょう。多くの可能性を持った子どもたちが安心してできるよう「違いを認め合い支えあっていけるから大丈夫ですよ。」と言える社会にしなければと思います。

上映会には西野さんと重江監督にもお越しいただきます。多くのおみなさまのご来場をお待ちしています。詳細は当会ホームページをご覧ください。お申込みは QR コードからでもできます。（菅田裕加）

重江良樹 監督作品
「さとにきたらええやん」

西野博之さん
重江良樹さん
来場！

上映時間 90分

自主上映会 & トークショー

「やってみよう」が
いっぱいある

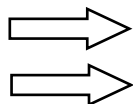
日時	2025年 2/24 日	上映会 12:00 ~13:30	トークショー 13:45 ~14:30	上映会 14:45 ~16:15
定員	先着 50名	費用	大人 1,000円 高校生以下、介助者無料	
会場	いくのコーライブズパーク 多目的室			

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

お申込みはこちら / 06-6754-3011

お申し込みはフォームから

お申込み QR コードはこちら



童夢KANSAIフェスティバル

「被災障害者⇔関西ポジティブ生活文化交流祭」として開催していたお祭りが、名称を改め、「童夢KANSAIフェスティバル」として生まれかわり、当会も出店をさせていただきました。災害に遭われた方達とのつながりはこれまでと変わりなくもながら、地域に暮らす誰もが気軽に訪れ、「童心」にかえり、「夢中」になってあそぶことでつながっていき、そして万一の災害時にも助け合うことのできるインクルーシブな社会を目指していこうという思いで開催されました。



毎年東北などから被災された当事者や支援者の方も参加してくださっていますが、昨年1月に発生した能登半島地震で被災された当事者の方も参加して下さっていました。被災地を応援する、つながりを継続していく趣旨ではじまったこのお祭りではありますが、毎年出店する自分たちも楽しみながら参加させてもらっています。色々な方との出会いと再会があり、つながりを感じることができるようになっているなどおもっています。

今年は風がきつく、肌寒い日になり、用意したクラフトビールを完売することはできず残念でしたが、今回の売り上げは、ゆめ風基金に寄付をさせていただきました。(石田智子)



正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！



◆正会員…活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方 会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者…活動を支援して下さる個人・団体の方 寄付金 年間3,000円以上

★当会は、認定NPO法人として認定されていますので、ご寄付をしていただくと、税制上の優遇措置

【所得税・個人住民税(大阪市内・府内※にお住まいの方)】を受けられます。認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしくお願いたします。

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080 特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※府民税の税額控除については、市町村により条件が異なる場合があります。



ピープルファースト大会に参加してきました！

29回目となりました「ピープルファースト大会」が奈良でおこなわれることになり、10月12日土曜日にメンバーさんに付き添いながら奈良へ向かいました。

夏が残る秋晴れの中、JR奈良駅は外国人でいっぱい！そんな中プラカードを持っている方を発見！「ようこそ～会場はこちらからどうぞ～」と笑顔で会場の案内をされていました。ほっとひと安心感と仲間感を感しながら会場入り！2日間にわたって行われる大会の初日は全体会、翌日はテーマごとに分かれての分科会が行われ、初日の会場はなら100年会館で行われました。

会場にはすでに全国各地から来られたメンバーさんたちでいっぱい！席を見つけて私たちのグループも席に着きました。

全体会ではおもに虐待事件に対して抗議を行ったことや旧優生保護法の裁判のことについて、当事者の方から報告があったりしました。そのことをしっかりと受け止めていくことも大事ですが、私が驚いたのは、メンバー当事者の元気です。全体会最後のテーマで言いたい事を言おう！ということで話したい事あれば挙手で訴えてくださいといったところ、会場のあらゆるところから「はいー！」「はいはいはい！」とどんどん手が出てきたところです。今自分が思っていること、悩んでいること、国に要求したいことなどそれぞれ個性的でその人らしく表現されており、この場は自由なんだと思いました。

全体会の後希望されたメンバーと別会場へ移動して交流会へ参加しました。毎年恒例のビュッフェでの食事会、食べ放題とはいいながら早くに食事が終了してしまうことを知っているメンバーは、はじまりの合図とともに猛ダッシュを決めていました。また恒例になっている名刺交換も始まりました。私たちのグループは食事の夢中でしたが、全国から来られたメンバーが名刺を渡しにこられると少し照れながら自分の名刺を渡すメンバーでした。とても良い光景でしたが、私が驚いたのは台湾や韓国から来られているメンバーのバイタリティでした。手作りの名刺もそうですが、日中活動で作ったキーホルダーやノートもプレゼントとして持ってきてどんどん渡されていました。この大会に力を入れてきたことが伺えました。先ほどの全体会でも大きな声で手を上げ、絶対みんなの前で言いたい！という強い思いを感じていました。

ピープルファーストは当事者のための大会であり、当事者が企画運営しており、当事者の思いを受け止め、発信できる自由な場所であると感じました。また同時に、日常の社会、地域や事業者、支援をおこなう一人ひとりの人間としてまだまだ十分にメンバーの思いや思いに答えられていない、抑え込んでしまっていないか、改めて振り返る機会となった大会でした。

交流会では最後にバンド演奏を楽しむメンバーがいて、帰りの時間ばかり気にする私でした。

(前田悟司)

第29回ピープルファースト大会報告

1日目の全体会の会場はJR奈良駅から徒歩5分の「なら100年会館」でした。笠永さんはJR奈良まで電車で移動しました。会場で知り合いにたくさん会いました！



開会式では小道さんが大阪を代表してプラカードをもちました。



全体会の合間に音楽が始まると、参加者から自然とダンスが始まります。山本さん、三ノ浦さん、山下さん、吉田さんも壇上に上がって踊りました。



2日目の分科会。「楽しく仲間をつくろう」に参加した河合さん。最後に感想を言いました。

「〇〇したい！」を応援したい！(スタッフ子育て日記)

息子は 2 年生になり、二つの事にチャレンジしています。一つは 4 月から英会話に通っています。息子から「英会話に行きたい」と申し出があり、理由を聞くと(顔立ちが外国人っぽいかからか)「『英語話せるの?』ってよく聞かれるから、話せるようになりたいな~と思って」とのことでした。通い始めの頃は緊張していましたが、今は楽しく通っています。息子は積極的に新しいことに挑戦するタイプではないため、今回の息子から「英会話に行きたい」と言われたのは意外でした。息子は何をするにもちょっと勇気が必要のため、「〇〇したい!」という気持ちを大切に、成功体験を積むことで自信になるといいな~と思っています。

二つ目のチャレンジは自転車です。2 年前に自転車を買って、何度か練習してコマなしで乗れるようになったのですが、転ぶのが怖くてなかなか乗りたがりません。練習中に乗れなくて泣いている息子を見ると、ついイライラして怒ってしまう私...。本人は私に怒られるのが嫌で、自転車に乗るのを嫌がっているのかもしれませんが、そもそも自転車は、私が「乗れるようになって欲しい」(息子を自転車の荷台に乗せて走るのが小柄な私にはそろそろ限界)と思い息子に勧めたため、本人が「やりたい」と言い出したことではありません。本人が「乗りたい!」と思えるように、私も見守る姿勢を身につけなければ...と反省しました。

本人から「やりたい!」と言ったことはもちろん、「やりたくない」と言ったことにも一緒に応援して取り組めるようになりたいな、と思う今日この頃でした。



ひさまつしょうこ (久松祥子)



私たちは地域で暮らしているんだ

久しぶりの選挙。投票所では支援者は中について入ることはできません。どうやって投票しているのか...気になります。ところで、昨年の漢字は「金」でした。政治の裏金問題やら、オリンピックやら、メジャーリーグの大谷選手の活躍やら、いろいろありましたが、私たちの生活においては相次ぐ食品の値上げが辛い1年でした。スーパーのレジで支払額に毎回びっくりしています。



いしいかおり (石井香里)

いくの しょく のう 生野“食と農のプロジェクト”ニュース No.120

事務局：出発のなかまの会 大阪生野区箕西2-5-4 はたらく・つながる「とりの木」

TEL:06-6752-4695/FAX:06-6752-4685

しんねん ことし ねが
新年あけましておめでとうございます！今年もよろしくお祈いします



あたらし とし むか きも ことし す くにをしようかなどき
新しい年を迎え、気持ちもあらたに今年をどう過ごすか、なにをしようかなど期
たい きぼう をふくらませている時期でしょう。昨年(さくねん)は能登半島(のとほんとうちいき)を襲(おそ)った地震(じしん)によ
り、新年(しんねん)を祝(いわ)うという気持ち(きもち)になれなかった人(ひと)もいたかもしれません。報道(ほうどう)によると
昨年(さくねん)末(まつ)までに災害(さいがい)関連(かんれん)死(し)を含(ふく)めて 500人(にん)以上(じょう)の方が亡(な)くなっています。地震(じしん)によ
る直接(ちやくせつ)死(し)よりも災害(さいがい)関連(かんれん)死(し)の死者(ししや)数(すう)が上(う)回(わ)っている状況(じょうきょう)です。1年(ねん)経(た)っても、その
つめあと(つめあと)は深(ふか)く地(ち)域(いき)に横(よこ)たわ(た)っています。

ことし ぶしめ できごと おお とし しゅうせん かいめ なつ むか かんさい て
今年(ことし)は節目(ぶしめ)になる出来事(できごと)が多い年(とし)です。終戦(しゅうせん)から 80回(かい)目の夏(なつ)を迎(むか)えます。そして、関西(かんさい)にゆかりのある出
来事(できごと)が節目(ぶしめ)を迎(むか)える年(とし)でもあります。現在(げんざい)も航空機(こうくうき)単独(だんどう)の事故(じこ)で死者(ししや)数(すう)において史上(じしやう)最悪(さいあく)の航空(こうくう)事故(じこ)とな
っている羽田(はねだ)空港(くうこう)発(はつ)伊丹(いたん)空港(くうこう)行(ぎょう)きの日本(にっぽん)航空(こうくう)123便(べん)墜落(たふお)事故(じこ)から 40年(ねん)が経(た)ちます。日本(にっぽん)にボランティア(ボランティア)が
根付(ねづ)いたといわれる「阪神(はんしん)・淡路(あわじ)大震災(だいしんさい)」から 30年(ねん)、JR福知山(ふくちやま)線(せん)脱線(だつせん)事故(じこ)から 20年(ねん)を迎(むか)えます。それぞれ
に尊(とう)い命(いのち)が失(うしな)われ、いまなお深(ふか)い痛み(いたみ)を抱(かか)えたまま暮(く)らし続(つづ)けている人(ひと)たちがいます。そのこと(こと)を忘(わす)れず(ず)に
いたいと感(かん)じます。

さて、まつのうえんではコロナ禍(か)によって中断(ちゅうだん)していた「生野区(いくのく)の空地(あきち)・空家(あきや)を利用(りよう)した食(しょく)と農(のう)のプロジェクト
をすすめる会(かい) 定例会(ていれいかい)を 10月(がつ)から再開(さいかい)しました。この間(かん)定例会(ていれいかい)を中断(ちゅうだん)していたこと(こと)により、空家(あきや)や空地(あきち)の情報(じょうほう)
その活用(かつよう)方法(ほうほう)や借(か)り手側(てがわ)の情報(じょうほう)などもストップ(ストップ)していた状況(じょうきょう)でした。再開(さいかい)して会議(かいぎ)をすすめていく中(なか)で、空家(あきや)
の改修(かいしゅう)において助成金(じょせいきん)を受けよう(う)けると耐震化(たいしんか)が必須(ひつず)になること(こと)がハードル(ハードル)になるため(ため)、空家(あきや)の改修(かいしゅう)がす
まないこと(こと)があるのでは(ではない)かという意見(いけん)が(で)てきました。資金面(しきんめん)だけ(だけ)ではない(ではない)か(か)もしれませんが、今後(こんご)ま
すます空家(あきや) (特に(とくに)築年数(ちくねんすう)の古(ふる)い)は、改修(かいしゅう)よりも建(た)て替(か)えるという流(なが)れになっ(な)っていくこと(こと)が予測(よそく)されます。それ
でも、空家(あきや)を所有(しやうり)しているオーナー(オーナー)のつよい思(おも)いや 趣(おもむき)のある建物(たてもの)や家屋(かおく)をな(な)んとか残(のこ)したい(したい)という熱意(ねつい)があ
る人(ひと)が少(すく)なから(から)ず居(い)るのも事(じ)実(じつ)です。

「生野区(いくのく)の空地(あきち)・空家(あきや)を利用(りよう)した食(しょく)と農(のう)のプロジェクトをすすめる
会(かい)」では、今後(こんご)、そう(そう)いった「地(ち)域(いき)愛(あい)」のある方(か)々とつな(つ)がり、ゲ(ゲ)ストス(ス)ピ
ーカ(カー)としてお招(まね)きして、建(た)物(もの)だけ(だけ)ではない(ではない)コ(コ)ミュニティ(ティ)の再(さい)生(せい)等(とう)に取
り組(く)んでい(い)ければと考(かんが)えています。

ことし ねが
今年(ことし)もど(ど)うぞ(ぞ)よろしくお祈(ねが)います。



本記事は 2025 年 1 月 15 日発行「生野“食と農のプロジェクト”ニュース」No.120 を転載しています

活動のあと

9/3	消防設備等法定点検①	11/1	グループホームスタッフ全体会議
9/4	内部研修(人権研修①)/消防設備等法定点検②	11/2	内部研修(発達障害勉強会)
9/5	内部研修(人権研修②)/執行委員会 松野農園ランチ会	11/3	内部研修(職員パワーアップ会議)
9/6	グループホームスタッフ全体会議	11/4	IKUNO サラダボウル・プロジェクト BBQ 交流会
9/7	内部研修(人権研修③)	11/6	ハローワークバーチャル見学会
9/8	防災フェスタ(巽東小学校)		共生フォーラム打合せ
9/9	執行委員会	11/7	松野農園ランチ会
9/11	生野区グループホーム連絡会世話人会	11/8	生野未来学園 サツマイモ収穫(松野農園)
9/12	執行委員会/内部研修(人権研修④)	11/9~10	みらくる ゆーすと合宿
9/13	職員研修(社会福祉法人草の根共生会) 職員研修受入れ(イエス団)	11/10	太極拳発表会(第 9 回みんなでゆ〜楽太極拳)
9/14~15	みらくるクラブ【キャンプ】(高取山ふれあい公園)	11/11~24	ソーシャルワーク実習生受入(四天王寺大学)
9/17	内部研修(感染症対策研修 2-①②)	11/12	能登被災地訪問報告会
9/18	内部研修(感染症対策研修 2-③) 生野区学童期こども支援連絡会	11/13	生野区グループホーム連絡会世話人会
9/19	執行委員会	11/14	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
9/20	内部研修(感染症対策研修 2-④)/ピロン(松野農園)/職員研修(社会福祉法人そらそらの杜)	11/15	職員研修受入れ(特定非営利活動法人 自立生活夢宙センター)
9/21	内部研修(発達障害勉強会)	11/17	みらくるクラブ【もちつき】(松野農園)
9/24	どんどんプロジェクト会議	11/19	内部研修(感染症対策研修 3・4-①)
9/25	内部研修(感染症対策研修 2-⑤)/生野区相談支援事業所連絡会/虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)/生野区 NPO 連絡会まち歩き	11/20	執行委員会/内部研修(感染症対策研修 3・4-②) ハローワーク合同面接会 生野区学童期こども支援連絡会
9/26	執行委員会	11/22	生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会/障大連運営委員会
9/27	地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会	11/23	童夢 KANSAI フェスティバル出店
9/30	出発通信発送	11/25	理事会
9/30~11/1	ソーシャルワーク実習生受入(関西大学)	11/27	生野区 NPO 連絡会役員会
10/3	松野農園ランチ会	11/29	ピロン(松野農園)
10/4	グループホームスタッフ全体会議	12/2	川崎市子ども夢パーク見学訪問
10/5~6	みらくる ゆーすと合宿	12/3	大阪市オールラウンド交渉①
10/8	生野未来学園 サツマイモ観察来訪(松野農園)研修委員会	12/4	作業所エッセンス会議
10/9	生野区グループホーム連絡会	12/5	大阪市オールラウンド交渉②
10/11	職員研修受入れ(社会福祉法人草の根共生会)研修委員会/共生フォーラム打合せ	12/6	松野農園ランチ会/共生フォーラム打合せ グループホームスタッフ全体会議
10/12~13	ピープルファースト大会 in 奈良	12/11	府高教・教育研究集会 生野区グループホーム連絡会 研修「認知症について」
10/16	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)生野区学童期こども支援連絡会役員会	12/12	執行委員会
10/17	執行委員会/不登校・ひきこもり支援連絡会	12/13	生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会
10/18	ピロン(松野農園)	12/14	内部研修(発達障害勉強会) 内部研修(虐待防止研修①)
10/19	内部研修(発達障害勉強会)	12/15	みらくる ゆーすと勉強会「性について」
10/21	自主勉強会	12/17	大阪障害者自立セミナー2024
10/22	研修委員会		どんどん交流会(南部障害者解放センター)
10/23	生野区相談支援事業所連絡会 生野区 NPO 連絡会役員会	12/21	内部研修(虐待防止研修②③)
10/25	研修委員会/生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会	12/24	内部研修(虐待防止研修④)
10/25~26	能登訪問(被災地交流)	12/25	執行委員会 内部研修(虐待防止研修⑤)
10/29~11/18	ソーシャルワーク実習生受入(桃山学院大学)	12/26	生野区 NPO 連絡会役員会
		12/27	内部研修(虐待防止研修⑥)/門松づくり ピロン(松野農園) /障大連運営委員会 地域共生ケア生野推進委員会役員会

編集後記

この元日で能登半島地震発災から1年が経ちました。元日には能登半島地震と奥能登豪雨犠牲者の追悼式が行われました。12月24日の内閣府発表によると、未だに避難所で過ごす方がおられ、断水未解消の地域があり、災害関連死が261人におよぶとあります。この実態を知ると、大阪関西万博の工事にかけてお金と人と資材を能登に回すことができたらと思い、大阪に暮らす者として申し訳ない気持ちになります。大災害の被災地の復旧復興が最優先にならない社会はおかしいと思います。大阪から、この声を上げて大きくしていきたいと思います。(平山周平)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011
大阪市生野区田島 1-10-30
たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749
郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
ホームページ <https://www.tabidati.jp/>
750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月1・2・3・4・5・6の日発行

発行人 関西障害者定期刊行物会

大阪市天王寺区真田山町二二一 東興ビル4階

頒価百円